

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

| | | | | | |
|-----------|------------------------------|--------|--------|-----------|--------------|
| 団体名 | 社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会 | | | 代表者名 | 片桐 計幸 |
| 担当者部署(属性) | 情シス担当 | 担当者部署名 | 総務課総務係 | 連絡先電話番号 | 0287-37-5122 |
| 担当者役職 | 主任 | 担当者氏名 | 郡司 哲弥 | 連絡先E-mail | |
| 住所 | 329-2705 栃木県那須塩原市南郷屋5丁目163番地 | | | | |

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

| | | | | | |
|-------|----------|---------|--------------|-----------|--|
| 団体名 | 那須塩原市役所 | 連絡先部署 | 企画部デジタル推進課 | | |
| 担当者氏名 | 課長 鈴木 正宏 | 連絡先電話番号 | 0287-48-7851 | 連絡先E-mail | |

1-3. 支援を求める内容

| | | | | | |
|----------|---|-----|------------------|--|--|
| 支援方法 | 職員向け啓発・研修（複数団体） | 事業名 | DXの活用による地域福祉推進事業 | | |
| 概要 | 栃木県社会福祉協議会、近隣の市町行政職員・社会福祉協議会職員（那須塩原市、大田原市、那須町の3市町を想定）を対象に、DX推進における認識や必要性の共有化、社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会（以下、本会という。）と行政とのパートナーシップの推進を図ることを目的に研修（ワークショップ）を実施したい。また、昨年度の支援を踏まえ、今後のDX推進における取り組みに向けたまとめとして、ムーンショット（ありたい姿・状態）からの具体的な取り組み（手段）を描くまでの過程をとおしながらDXの推進に向けた助言をいただきたい。 | | | | |
| 支援を求める分野 | 人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 人材（外部人材活用） 医療・介護・健康 ICT活用広報 | | | | |

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

| | | | | | |
|-------------|---------------|---------------------------------|---------|--------------|----------|
| 2-1. 対応日・時間 | 期日・支援内容の変更あり | 受付番号 | 変更後の派遣日 | 変更後に実施した支援内容 | 実地/オンライン |
| | 無 | | | | 実地 |
| | 派遣日予定日（申請書より） | 支援内容（申請書より） | 開始時刻 | 終了時刻 | 内休憩時間（分） |
| | 令和7年7月31日 | 講演&フォローアップ(実地) | 8時30分 | 17時00分 | 60 |
| | | | 活動時間（分） | 450 | |
| 2-2. 派遣場所 | 会場名 | 社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会本所（健康長寿センター内） | | 最寄駅 | 西那須野駅 |
| | 所在地 | 栃木県那須塩原市南郷屋5-163 | | 最寄駅からの交通手段 | タクシー |

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

| | |
|-----------------------------|--|
| アドバイザー | 宮崎 昌美 |
| 評価 | 大変良い |
| 上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に） | 講義とワークをとおり、DXの共通認識・共通言語化の機会として、組織内の機運の醸成を図ることのできる内容で研修をしていただいた。また、ムーンショット（あるべき姿）を掲げての目指すべきDX像を描けるイメージがたった。 |
| アドバイザーへの要望事項 | 引き続きアドバイスをいただきたい。 |

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

| | | | | | |
|--|--|-------|-----|-------|-----------|
| 4-1. 支援を受けた対象者 | 属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】 | 合計人数 | 39人 | | |
| | 属性 | 自治体職員 | 住民 | 企業・団体 | その他(学生など) |
| | 人数 | | 36 | 3 | |
| 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果 | | | | | |
| 事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい） | ・財源面や人員の確保等において厳しい現状にあり、業務上において、効率化が図れていない業務が山積しているため、DXの活用をおし業務の見直しをすること。 ・DXを推進していく上で、職員一人ひとりの意識の共有化を図る必要があり、具体的な取り組みを描いていく必要があること。 ・本会が置かれている現状等を行政（市）に伝え、地域福祉の推進に向けてともに取り組んでいく必要があること。 | | | | |
| 支援により目指す成果（具体的にご記入下さい） | ・令和8年度末までにDXを推進することにより、福祉の総合相談窓口の機能を十分に発揮し、地域住民に対し、地域づくりや相談支援、社会参加の充実を今以上に図っていくことを目標としている。目標が達成されることにより、地域住民のやりたいという思いに寄り添い、その思いが実現できるようになることを目指す。 ・DXの成果として、毎日が「楽に」、「楽しく」なると職員が実感できるようになる。 | | | | |

| | | |
|---|--|-----------------|
| アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい) | <ul style="list-style-type: none"> ・講義をとおり、DXを必要とする社会的背景や地域共生社会とのつながりについて習得した。 ・ワークをとおり、本会のあるべき姿や理想像について学びを深めた。 ・他自治体等の事例にふれ、DXの推進に向けた今後の具体的な進め方について助言を受けた。 | |
| 支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい) | <ul style="list-style-type: none"> ・DXにおける認識の共有、機運の醸成を図ることができた。 ・DXがなぜ必要なのか全職員が改めて振り返ることができた。 | |
| 具体的な成果物 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい。 | ⑦その他 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・DXが必要となる理由を本会職員が理解できた。 ・DXを進めていく上で、我が事として認識を深めることができた。 | |
| 改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください) | <ul style="list-style-type: none"> ・DXの推進に向けた具体的な取組や方策 ・ムーンショット（理想の姿）における目的と手段 | |
| アンケートの内容と分析結果 | 講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 3回シリーズでの支援のため、アンケートを行わなかった。 | |
| 4-3. 今後の計画 | 最も当てはまるものをリストより選択下さい | ②次年度に予算化を図り推進する |
| | 本会におけるムーンショットを描き、DXの手段を明確にする。また、具体的な計画や予算確保等を進めていく。 | |
| 4-4. 事業の最終的な目指す姿 | DXを推進していきながら業務の効率化を図り、地域共生社会の実現を目指すこと。 | |

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

| | |
|------|---------------------------|
| 掲載許可 | <input type="radio"/> 掲載可 |
|------|---------------------------|

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

